

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 16 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏 名	野木村忠度
研究課題	デジタル社会における流通システム				
研究キーワード	ICT E コマース ビジネス・エコシステム プラットフォーム オムニ・チャンネル	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし		該当なし	該当なし

1. 研究成果の概要

2000 年前後から、ICT 技術の発展により流通産業及びマーケティングは大きな変化を及ぼすことになった。ICT 技術の発展は、インターネットを一般消費者に普及させ、生産と消費間にあった情報の偏在を大きく解消するに至った。また、ICT 技術を手に入れた消費者は情報を収集・蓄積が容易になり、その消費行動は大きく変わったことで、企業のマーケティングも当然ながら変化していった。

このような変化の中で、流通産業及びマーケティングはどのように変化したのであろうか。流通産業においては、E コマース（EC モール、D2C、CtoC）やオムニ・チャンネルなどの新たな流通システムが形成された。この新たな流通システムは変化をし続けており、様々な課題が表面化しつつある。

本研究の目的は、「デジタル社会における流通システム」を流通・マーケティングの観点から分析し、デジタル社会における流通システムの本質を探ろうとするものである。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）
【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

2024 年 5 月出版予定・首藤 禎史編著『(仮) クリティカル・マーケティング』創成社
・第 4 章 4 節 2 項 マーケティング・チャンネルと 4 Ps の Place に関する議論について
・第 4 章 5 節 オムニ・チャンネルと垂直的マーケティング・システムの関係
・第 4 章 7 節 小売りチェーンと垂直的マーケティング・システムとの関係について

【学会発表等】

3. 主な経費

- ・調査費（文献調査及び小売業の調査費）
- ・文献費

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

（本文は2ページ以内にまとめること）